

平成28年度 あきたスマートカレッジ (報告)

Bあきた教養講座

B1～3：戦国末期から江戸初期の東北・秋田 東大史料編纂所特別講座 会場：秋田県生涯学習センター3階 講堂

【趣旨】東京大学史料編纂所の若手准教授による特別講座です。織田信長から江戸初期に至る時期を専門とする3人の講師が、秋田や東北に関するテーマで講座を行います。最先端の歴史学の成果に触れるまたとない機会です。

講座記号	期 日	テーマ	講 師	参加者数
B 1	9月10日 (土)	織田信長と奥羽	東京大学史料編纂所 准教授 金子 拓 氏	147
B 2	9月24日 (土)	安藤氏から佐竹氏へ ～天下統一と東北・秋田～	東京大学史料編纂所 准教授 黒嶋 敏 氏	195
B 3	10月8日 (土)	佐竹義宣と天下普請	東京大学史料編纂所 准教授 及川 亘 氏	137
合計				479名

東京大学史料編纂所とは東京大学の附置研究所であり、前近代の日本史関係の調査・蒐集・研究と基本史料集の編集を行っているところです。『大日本史料』『大日本古文書』等を刊行しています。『大日本史料』は1901年から刊行し、第十二編は、慶長8年(1603年、江戸開府)～慶安4年(1651年、家光の死)までを扱っています。現在、元和9年(1623年)の編纂中とのことです。東京大学史料編纂所の研究者が、秋田県立公文書館で調査・研究した成果を発表して下さる機会を持つことができました。

ここでは、2回目の講座について報告します。

三人の准教授の中でも一番若い黒嶋先生は、エネルギッシュな語り口で、200名近い受講者を前にご講話いただきました。

近年の秋田県内の自治体史(秋田市史、能代市史、横手市史等)の刊行について触れ、出羽北部(北羽、おおむね現在の秋田県域)のおもしろさが再発見されたことや、地域の歴史から見た日本の歴史、つまり歴史像の組み換えによる相対化について話されました。

豊臣政権下で「官途」を持たないことは異例であり、秋田藤太郎実季は他の諸大名と比べ、成人した独立大名としての地位を十分に確立できなかったとのことでした。その原因として、父安藤愛季が急死したことをあげられました。幼い当主実季の誕生によって北羽の状況が変化し、湊(豊島)茂季の抵抗が起き、湊合戦へつながっていったことを解説されました。加えて北羽には小領主クラスが秀吉直臣として成立したこと、そして「侍従」への任官が「大かた相調申」の矢先に秀次事件が勃発したことも、原因としてあげられました。豊臣秀吉朱印状や徳川家康書状等、史料を基に解説する先生の姿に、受講生は引き込まれていきました。秀吉が死去し、家康が「天下殿」と見なされ、佐竹義宣は秋田へ、実季らは入れ替わりに常陸へ。豊臣氏蔵入地の多さという共通項のある北羽と常陸について、時間をかけた戦後処理を行う必要があったのではないか。北羽は豊臣政権が東国に設定した支配拠点の一つであり、愛季の寿命があと数年あれば歴史は変わっていた、と結びました。

